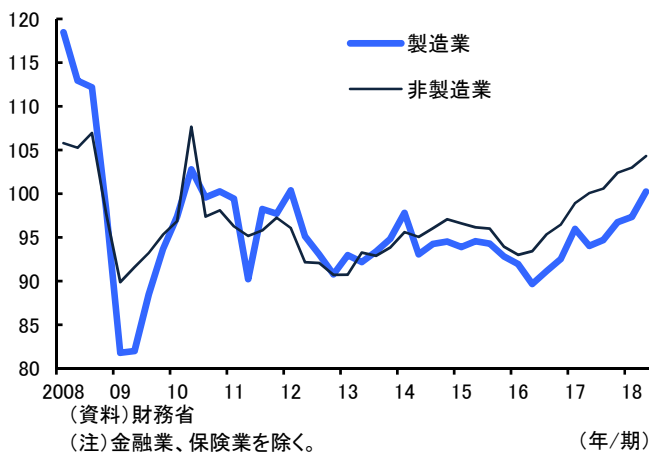


## 2018年4～6月期法人企業統計の評価と2次QE予測

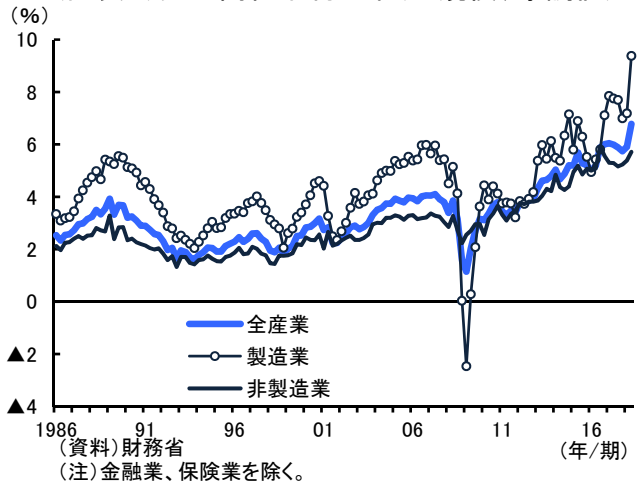
- (1) 法人企業統計季報によると、全産業でみた4～6月期の売上高は内外需要の持ち直しを背景に、前期比+1.8%と、8四半期連続の増収（図表1）。経常利益も同+16.9%と大幅に増益（図表2）。人件費の増加が下押しに作用する一方、売上がそれ以上に増加したことや、海外子会社からの配当受取等も大きく増加したことなどが背景。一時的な要因で押し上げられた面はあるものの、企業業績は着実に改善していると判断。
- (2) 設備投資は、全産業ベースで前期比+6.9%と事前予想を大きく上回る増加。製造業は同+11.0%と二桁増加となったほか、非製造業も同+4.7%と底堅い伸び。経常利益の上振れにより設備投資キャッシュフロー比率は高まっていないものの、好調な収益環境が持続するなか、幅広い業種で設備投資の持ち直し傾向が明確化（図表3）。
- (3) 今般の法人企業統計等を織り込んで改定される4～6月期の実質GDP（2次QE）は、設備投資が上方修正となる見込み。その結果、成長率は前期比年率+2.1%（前期比+0.5%）と1次QE（前期比年率+1.9%、前期比+0.5%）から上方修正される見込み（図表4）。マイナス成長となった1～3月期から持ち直す姿が一段と鮮明に。

(図表1) 法人企業の売上高(全規模、季調値)

(2010年=100)



(図表2) 売上高経常利益率(全規模、季調値)



(図表3) 設備投資キャッシュフロー比率と  
労働分配率(季調値)



(図表4) 2018年4～6月期GDP統計予測

(%, %ポイント)

	1次QE		2次QE	
	前期比	前期比年率	前期比	前期比年率
実質GDP	0.5	1.9	0.5	2.1
内需 (寄与度)	(0.6)	(2.4)	(0.7)	(2.7)
民間 (寄与度)	(0.5)	(2.2)	(0.6)	(2.5)
個人消費	0.7	2.8	0.7	2.8
住宅投資	▲2.7	▲10.3	▲2.7	▲10.3
設備投資	1.3	5.2	1.9	7.7
民間在庫 (寄与度)	(0.0)	(0.2)	(0.0)	(0.0)
官公需 (寄与度)	(0.0)	(0.2)	(0.0)	(0.2)
政府消費	0.2	0.9	0.2	0.9
公共投資	▲0.1	▲0.5	▲0.1	▲0.3
公的在庫 (寄与度)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)
外需 (寄与度)	(▲0.1)	(▲0.5)	(▲0.1)	(▲0.5)
輸出	0.2	0.8	0.2	0.8
輸入	1.0	3.9	1.0	3.9
名目GDP	0.4	1.7	0.5	1.9

(資料)内閣府、財務省などを基に日本総研作成

【ご照会先】 調査部 研究員 根本 寛之 (nemoto.hiroyuki@jri.co.jp , 03-6833-8913)